

# おせつとみおか

## その2



『おせつとみおか』では、富岡町に住まれていた先輩方に町のことを教えていただき、冊子としてまとめるという活動を行ってきました。4年目となった2017年度の活動、そして私たちの存在をもっと多くの人に知っていただきたいとの想いでこの広報誌を昨年に引き続き発行することにいたしました。

2017年度の活動や作品の紹介、ちょっとした小話等、さらに今後の活動内容についてお知らせをしております。ぜひ読んでいただきたいです。

2011.3.11 あの日から7年が経過し、図書館の再開等町でもまた大きな動きがありました。それぞれ富岡町へ抱く思いはさまざまですが、この広報誌、また作品集を読んで思いを馳せて頂けたら幸いです。

聞き手・学生サポーター 一同

# 富岡町次世代継承聞き書きプロジェクト『おせっぺとみおか』とは

『おせっぺとみおか』とは、富岡町で暮らしていた人にしか話すことのできない富岡町の歴史や風景を、富岡町で育った子どもたちが「聞き書き」という手法を通して、後世に残していこうという取り組みです。

「聞き書き」とは、話し手のお話を一字一句訛りなどもすべて文章にし（書き起こしという作業）、文章の取捨選択をしながら一つの作品に仕上げる手法のことです。話し手の方の生活やものの考え方、お仕事の話など、たくさんあるお話の中から話し手の人生が詰まっていると思う部分を見つけ、その話を軸に作品を作り上げていきます。

『おせっぺとみおか』では、富岡町で育った子ども達と同じ町で長く暮らしてきた年長者とが聞き手と話し手となり作品を作ります。出来上がった作品は作品集として冊子にして、3月に行われる成果発表会にて配布します。

## 2017年度スケジュール

- 6月 参加の申込み
- 7月
- 8月 第1回研修  
書き起こし
- 9月 2回目インタビュー
- 10月 書き起こし
- 11月 作品づくり
- 12月 第2回研修  
作品手直し
- 1月 作品完成  
感想文作成
- 2月
- 3月 成果発表会



インタビューの書き起こし作業。文字数も莫大な量…

研修の時間外には、気持ちを切り替えて遊びます♪

作品ができるまで山あり谷ありだよ。

対話を通して町の魅力を再発見



まずは研修からスタート。2回のインタビューから思い出深いエピソードを拾い上げ、一つの作品に仕上げます。

## 『おせっぺとみおか』はじまりのこと

この活動を始めるにあたって、市村さん(当プロジェクト代表)たちが目指したのは、「子どもたちが故郷と向き合い、それぞれが自分なりの『卒業』という区切りをつける」ことでした。彼はこんな話をしてくれました。

「子どもたちは被災によって、学校や地域からきちんと卒業できないまま引き離された。震災がなければ、みんな自分の意思で進路を決めて進学したり社会に出ていくでしょ。でも、そういうことなしに学校や故郷との関係を引き裂かれた。だからちゃんと卒業させてあげたいんだよね。」子をもつ親として、子どもたちの将来を心配していたんですね。

ですからこの活動には「子どもたちが生まれ育った『富岡町がどういうところだったのか』を知ることによって故郷と向き合い、将来どんな困難に遭っても乗り越えられる力をつけてほしい」という大人たちの想いが込められていたんです。

子どもたち、話し手さん、おせっぺの卒業生などたくさんの人たちの協力で紡がれた糸は、僕らを、みなさんを優しく包み込んでくれる心地のいい織物になってきているように感じました。これからどんな柄で織られ、仕立てられていくのか、楽しみでしょうがないです。

2014・2015年度共同代表／アドバイザー 佐藤彰彦先生の言葉



2014年度



2015年度



2016年度



2017年度



1年ずつ積み重ねてきました

# 『おせっぺとみおか』 2017年度 作品の紹介



## 『出会いは一瞬にして一生』

(話し手) (聞き手)  
渡辺光夫 × 市村凌雅

今回お話を聞いた渡辺光夫さんは、人と関わり、人に教わり、人とのつながりを大切にしてきた方で、幼少期、学生時代、社長時代の全てを通じて、人なしでは語れない生活を送られてきました。そのような方がどんな人生を送ったのか、そしてどのようにして富岡を盛り上げていったのか、この作品で伝えられたら幸いです。



## 『「さくら」と共に生きていく』

小野耕一 × 渡邊純哉

今回お話を聞いた小野耕一さんは、富岡町でさくらの木と共に生活をしてきました。現在は郡山市で染め物の趣味を始め、将来的には富岡のさくらを題材に作品の制作を目指している最中です。今作品では、幼少から現在までの小野さんが生きてきた人生をまとめ、その中で小野さんがこれからも「富岡のさくら」とどう向き合っていくのかを体感していただければ幸いです。



## 『守らねっかなんね』

松本政喜 × 荒木明彦

今回、伺った松本政喜さんは子どもの頃の生活や消防士の経験から家族、地域の人、子ども、お年寄りと多くの方を守らねっかなんねと日頃から思われているとても優しく強い方です。そんな松本さんの歩まれてきている人生と松本さんの目を通して見る富岡町を感じて頂ける作品になっていると思います。

### 作品づくりの協力者 (2017年度)

講師 : 吉野奈保子 (認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク)  
下村健一 (元TBS報道キャスター)

アドバイザー : 加藤眞義 (福島大学)、佐藤彰彦 (高崎経済大学)、山本薫子 (首都大学東京)

サポーター : 市村葵惟、武藤征也、春山尚美、緑川沙智、横山智樹

作品集差し上げます!

※詳細は裏表紙をご覧ください



### 2016年度作品



2016年度のおせっぺメンバー

『俺が手え引っ張ってやるから、俺の手え引っ張ってくいよ。』

(話し手) (聞き手)  
遠藤祝穂 × 市村葵惟

『神様はクリアできない宿題は出さない』

佐藤勝夫 × 平良杏太

『家族と、町の人と、皆と過ごした富岡町』

渡邊典子 × 市村妃蘭

『自然に生き、自然を後世へ』

猪狩俊幸 × 武藤征也

### 2015年度作品

『麓山さまはいつもそばにいた  
～生活の一部であった火祭りへの思い～』

(話し手) (聞き手)  
三瓶洋二郎 × 市村妃蘭

『自然は生きる力になる』

穴戸弘道 × 佐藤愛恵

『気持ちいい富岡のために』

猪狩弘道 × 武藤征也

『大原本店九代目社長として歩む道』

大原弘道 × 坂本秀美



2015年度のおせっぺメンバー



# 未来につながっていく活動 ～成果発表会、20年後の同窓会を通して～

富岡町を語り合う人たち。語り合う人たちを囲み、ふるさとの思い出に耳を傾ける人々。発表会の中で自然と花開いたかつての“ふるさと”の風景・時間、あの頃の温度感、仲間の笑顔は、一つひとつ心の中に改めて刻み込まれました。

## 成果発表会

2018年3月31日に、中央大学後楽園キャンパスで2017年度の成果発表会を開催しました。学生サポーターを中心に企画したこの会では、聞き手やサポーターによる成果報告のほか、元TBS報道キャスターの下村健一先生をお迎えし、『おせっぺとみおか』の活動を振り返りました。参加した一人ひとりが町や自分の未来と向き合った一年を締めくくる大切な機会になりました。



## 渡邊純哉

### 人生の先輩から教えてもらった、 未来を生きるヒント

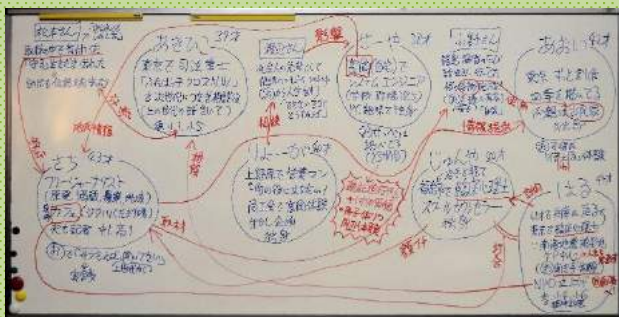
震災当時の自分とは違って、成人した現在では、震災という出来事をそこまで悲観していない自分があります。避難先で沢山のひととふれあい、繋がりを作り、新しい意志を持って自分を形成していくことができたからです。『おせっぺとみおか』でも、町の先輩方とお話を重ねていく過程で、富岡について、さらに自分のことについての未来を考えるうえでのヒントを得ることが出来たのではないかと思います。聞き手との対話だけでなく、自分自身との対話も併せてしてきた、そんな一年間を過ごすことが出来ました。

風景は時代の移ろいとともによがらぬ心も変化していく。私達も年を取り、立ち止まっては行かない。何もなければ、世代が変わり、共通の遊びも風景もなくなってしまふ。その中でも変わらないもの。『おせっぺとみおか』はそのかけらを大事に集め残しています。

## 20年後の同窓会

第2回目の研修では、参加学生が20年後に同窓会を行っているという設定で『おせっぺとみおか』の活動を振り返るワークショップを行いました。

20年後の自分に成りきって、当時を振り返ることで『おせっぺとみおか』の活動がどういう意味を持っているかを再発見し、共有しました。『おせっぺとみおか』が参加者みんなの人生に少なからず影響していることに気付いた、面白くも大切なワークショップとなりました。



「20年後の同窓会」の関係図



## 市村凌雅

### 人生の先輩から教えてもらった、 未来をよりよく生きるコツ

僕は出来ないと思ったらすぐ何かを諦める癖があり、今まで様々なことを諦めてきました。何とかしたくてもどうすれば克服できるかわからない状態でしたが、光夫さんの「出来ないじゃなくて、どうすれば出来るか考える」という言葉がこの悩みの解決と同時に、僕に衝撃を与えてくれました。

研修中に行ったワークショップで、20年後の自分はこの言葉をもとに富岡ではない別の地域で町の活性化を頑張っているだろうと未来を予想し、形は違えどおせっぺで得た経験はこうして形になるのかなと感じました。

## 『おせっぺとみおか』が教えてくれたこと ～編集後記にかえて～

今回、私は初めて『おせっぺとみおか』に参加しました。活動の柱である「聞き書き」とはどういった取り組みなのか。その手法を使うことによって、どのような作品を生み出すことができるのか。そもそも「おせっぺ」という言葉は、私たちに何のメッセージを届けようとしているのか…。これまで一度も富岡町を訪れたことがなかった私にとって、この活動は、富岡の姿を描くための貴重な材料になっていきました。

活動を通して、お話を伺っていくなかで、富岡町で暮らしてきた年長者である「話し手」と、富岡町にゆかりのある若者の「聞き手」が持つそれぞれの富岡の姿に触れていきました。いま、私のなかに広がる鮮やかな富岡町は、皆さんの喜怒哀楽という言葉では言い表せないほど複雑で、まっすぐな想いで作られています。そして、インタビュー活動で初めて現実の富岡町の地に立ったとき、見える景色一つ一つに皆さんの想いが重なりました。1人の視点から見る富岡町と、たくさんの人の想いとともに見る富岡町の姿は、まったく違うのです。

「おせっぺ」すなわち「教えてあげる」という方言から伝わる古里への想いを是非、みなさんにも感じてもらいたい。きっと、あなたの目の前に広がる景色や古里に思いを馳せるきっかけに繋がると 생각합니다。今年、三つの作品が込められた冊子を通して、富岡の文化と歴史、人々の生きざまを後世に遺せることを心から感謝しています。

学生サポーター：緑川沙智



### 一緒に活動しませんか？

～突然ですが、あなたの考える「富岡町」とはどんな町ですか？

さくらの  
町？

かつて  
住んでた  
ところ？

原発の  
ある町？

自分の  
ふるさと？



『おせっぺとみおか』に参加して、自分の知らない町の姿を知りましょう！気負いせずに、思い出を語り合うくらいの気持ちで参加してもらえると幸いです。

この広報誌を見て、「興味を持った」「話を聞いてみたい」「参加してみたい」と思った方など、気になることがある方はぜひご連絡ください。お問い合わせは、事務局までお気軽にどうぞ！

### 『おせっぺとみおか』作品集をさしあげます！

作品集をご希望の方には、希望者負担（着払い：300円＋手数料21円、またはお申込み時に切手180円同封）にてお送りいたします。限定100セットで終了としますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。お申込み後、事務局より確認のご連絡を差し上げた上、お送りいたします。

#### 【お送りするセット内容】

- ・2015年度作品集×1
- ・2016年度作品集×1
- ・2017年度作品集×1

※お一人様、1セットまでとさせていただきます。



#### 【お申込み方法】

- ①【ホームページ】の専用フォームからお申込みいただけます。<https://tomiokakikikaki.wordpress.com>
- ②【メール】件名に「おせっぺとみおか作品集 希望」と書いて、必要事項（氏名、郵便番号、住所、電話番号）をお知らせください。
- ③【手紙・はがき】に「おせっぺとみおか作品集 希望」と書いて、上記の必要事項を事務局宛てにお送りください。封書の場合、切手180円を同封いただければ手数料なしでお送りします。

いずれも、着払いの場合は、受取時に送料＋手数料の321円を郵便配達員にお支払いください。



問い合わせ・事務局

特定非営利活動法人 とみおか子ども未来ネットワーク

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2-18 美倉ビル502

✉ oseppetto@t-c-f.net ☎ 080-9803-2862（代表）



タケダ・赤い羽根  
広域避難者  
支援プログラム

\*2017年度の『おせっぺとみおか』は、東日本大震災復興支援 JT NPO プロジェクトの助成を受けて活動しました。